

大空 —放哉だより—

第172号 2025.12.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106土庄町本町甲1082 ☎62-0037

大正14年12月頃からの『入庵食記』や友人知人にあてた手紙の中に「風」という言葉がよく見られます。「四日モ五日モ 昼夜北西ノ風吹キマクリ、水ヲマケバ氷リコンナ風強クテ寒イ 処、始メテ也」「烈風又烈風」「昨夜大暴風」「此処の島位、風が吹いて寒い処は、今迄知りませぬ」「寒イニハ、閉口、烈風二閉口」「ドンドン炭ヲオコシテ…チバカンで居ますよ」など、島の風に参っている様子が窺えます。

放哉没後、その「風」とともに放哉へ追悼文を書き残した人がいます。赤木咩亭です。咩亭は当時、西光寺の小僧さんでした。本名 忠治。得度し宥中となり、放哉来島後はじめて西光寺を訪れた時に応待しました。放哉に俳句の指導を受けており、咩亭という名(俳号)は放哉が付けました。以下『風と放哉先生』(昭和3年12月記)から一部抜粋してご紹介します。(全文は「放哉」南郷庵友の会会報19号『風の自由律俳人 赤木咩亭』に掲載されています)

「島も師走に入って毎日冷たい風が、吹いて吹いて吹きまくる。風に就いて放哉先生を思い出す。先生はこの風にお倒れになったのだった。先生は常に此の風を嫌って居られた。私はこの季節が来る度に、先生のことを痛切に思ひ出させられる。…(中略)…併し哀しいことは、先生が逝かれたことだ。風が何處かへ逝った頃、先生の靈魂も遠くこの地上から何處ともなく逝ってしまったのだ。一番先生の嫌いな嫌いな風と共に逝かれてしまったのだ。ア、私は風が恨ましい。怨んでも憎んでもあきたらない。今晚も風が烈しく吹いてゐる。私は風音のたつ度に先生のことを思ひ出す。…(中略)…私の句作にむち打って下さるのは先生です。風が吹くと先生を思ひ出す。先生を思ふと精進せねばならない。折角御病中にもか、わらず教へて下さったのだから…。風音—先生—精進—これが私の句作に非常な関係を持ってゐる。併し未だ未だ精進はたらないのである。



夜びて吹いて朝も吹いて師走の島はよ 大空放哉居士 霊前へ 申上げます。この句は如何でせうか。私の精進はこれくらみです。」

※赤木咩亭…明治40年1月岡山県生まれ。10才の時、小豆島88カ所第58番霊場西光寺の門を叩く。師僧は杉本有玄(俳号 玄々子)。よく師に仕え、後に第60番霊場江洞窟を任される。

文中にある句の石碑が記念館前庭にあります。ご家族のご協力により平成21年4月7日に建立されました。



| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

●放哉だより発行日
□記念館休館日 □資料館休館日

今年も大変お世話になりました。百回忌という大きな節目を、多くの方々とともに迎えることができました。誠にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。



年末年始の休館日
小豆島尾崎放哉記念館
12月28日(日)～1月4日(日)
土庄町尾崎放哉資料館
12月29日(月)～1月3日(土)